図書館通信　５月号　宇東図書委員会

そろそろ学校生活にも慣れてきた頃だと思います。時間に余裕がある今、新しい本を読んでみませんか？　ところで、先日「２０２２年度本屋大賞」が発表されました。次々にドラマ化、映画化される「本屋大賞」ってどんな賞か知ってますか？　今回は本屋大賞についての説明と、その中から、今月の図書館通信を担当した、私たち３年１組・２組一押しの本を紹介します。

【本屋大賞とは？】

書店員有志で組織する本屋大賞実行委員会が運営していて、書店員の投票だけで選ばれる賞です。「本屋大賞」とは、新刊書の書店（オンライン書店も含む）で働く書店員の投票で決定するものです。過去一年の間、書店員自身が自分で読んで「面白かった」、「お客様にも薦めたい」、「自分の店で売りたい」と思った本を選び投票します。

【2022 大賞作品】

『同志少女よ、敵を撃て』逢坂冬馬　著

ソ連の猟師の子である、少女セラフィマ。彼女の住む村をドイツ軍が襲い、村民は皆殺しにされてしまいます。彼女も殺されそうになったところを、赤軍の兵士であるイリーナに助けられ、彼女は狙撃手になることを決意します。人を撃った時の衝撃や、自分が戦う意味を見つめ直したりするなど、リアルで重みのある戦争小説です。ぜひ読んでみてください。

【２位】

『青と赤とエスキース』青山美智子　著

「エスキース」とはフランス語で、下絵を指す言葉です。メルボルンの若手画家が描いた一枚のエスキースが日本へ渡って三十数年、その絵画は様々な人の手に渡り、奇跡を紡いでいきます。一枚の絵画が軸になって展開する、二度読み必至の仕掛けに満ちた傑作連作短篇です。

【３年１組・２組の図書委員おすすめノミネート作品】

『六人の嘘つきな大学生』　浅倉秋成　著

成長著しい IT 企業「スピラリンクス」が初めて行う新卒採用。 最終選考に残った６人の就活生に与えられた課題は、一カ月後までにチームを作り上げ、ディスカッションをするというものでした。全員で内定を得るため、波多野祥吾は五人の学生と交流を深めていきますが、本番直前に課題の変更が通達されてしまいます……。

考察しながら読んでいくことで物語に入り込むことのできるおすすめの一冊です。

【2022 年　その他の本屋大賞ノミネート作品】

・『硝子の塔の殺人』知念実希人　著　　・『黒牢城』米澤穂信　著　　・『残月記』小田雅久仁　著

・いかがでしたか？本屋大賞について理解できたでしょうか？
・この他にも、図書館にはほかの本屋大賞ノミネート作品があります。ぜひ足を運んでください。